

へいじろう

HEIJRŌ










2024 秋
令和6年11月11日
第71号



第55回鉄砲祭り
手踊り集合写真

もくじ

-  P1…高尾院長の講話より
-  P2…市民公開講座『がんのこわくて、やさしいお話』
-  P3…市民公開講座『整形について』
-  P4…整形外科吉元先生より『変形性膝関節症』について
-  P5…小児科塩川先生と田上理事長の記事が掲載されました
…田上容正会長が南船賞を受賞されました
-  P6…リハビリテーション室より体操の紹介
-  P7…市政の窓へ掲載

種子島医療センター HP



高尾院長の講話より SHOGUN(家康)と衆議院選挙

衆院選は、自民党の単独与党は疎か、公明党との連立与党も過半数割れでひとまず終焉した。時代の流れなのか、有権者が時代を変えたのか？一方、候補者たちがお題目のように唱えていた「政治改革」「減税」「教育無償化」はどうなるのか？私たちは目を凝らして注視しなければならぬ。

私は歴史物に興味があり、昔の英雄や偉人が現代に現れたら何を思い、どのように行動するか、などを考えたりする。

米テレビ界で最高の栄誉とされる第76回エミー賞（授賞式9月15日）は、日本にとって正に衝撃だった。TVドラマシリーズの作品賞に「SHOGUN将軍」が選ばれ、同作品から真田広之さんが主演男優賞、アンナ・サワイさんが主演女優賞を受賞するなど史上最多の18冠に輝いた。

「SHOGUN」は徳川家康をモデルにした関ヶ原の戦い前夜が舞台となっている。

その家康が今の日本にタイムスリップしたら・・・。

まず、徳川時代が続いていないことに落胆するだろう。また、太平洋戦争の敗北と原爆投下を受けた日本、その後の復興とDXが進む現在、さらに宇宙を目指すロケットが、家康もよく知る鉄砲伝来の島で打ち上げられていることに驚嘆するだろう。

衆院選は戦国時代であれば「関ヶ原の戦い」かも知れない。日本随一の権力者であった家康は、国民が選挙を通して権力を選ぶことをどう思うだろう。不自由な少年期を余儀なくされた家康から見れば、「民主主義」と「自由」は、まぶしくかつ羨ましく見えるかも知れない。

一方、今回の衆院選を見て、浮かれ過ぎた時代は長くは続かないことを肝に銘じよ、と苦言を呈するだろう。「水よく船を浮かべ、水よく船を覆す。ただこのことを、よく心得られよ」徳川時代を築いた家康の名言である。

賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ。過去の種子島医療を振り返り、未来の種子島医療に思いを馳せて、医療安全は大丈夫か？新興感染症への準備は出来ているか？私たちが目指す種子島医療をさらに力強く進めよう。

高尾院長の講話より

種子島医療は今の時代に本当に合っているのか？

まだ、石破茂首相は、新内閣発足に伴い「5つの守る」を実現すると掲げ、その一つ「国民を守る」では、「今の時代に合っているのか」と問いかけ、医療、年金、社会保障の見直しに着手すると表明した。

その背景として、自民党政治は、予測できた少子高齢化社会に対して何ら対策も取らず、社会保障を疲弊させた。財源になるはずだった消費税の大部分を他の財源補填に転用し、医療費の自己負担増と年金減。働き方改革では医療従事者だけに留まらず患者さんへの負担こそあれ改善に乏しく、コロナ禍が終わったら診療報酬削減による医療機関への経営圧迫。まずは、自民党が今の時代に合っているのか？が問われるべきだろう。

その上で、種子島医療が今の時代に合っているのか？を考えてみたい。

高齢化率40%の離島医療は、未来の我が国の医療の縮図でもある。すなわち高齢者救急が増加する結果、高齢者の緊急手術の増加が予測され、これからの医療の難しさを示している。

本院では、外科系ならびに麻酔科のドクターおよび手術室職員らの強烈な使命感と努力、さらに技術力によって、高齢者緊急手術の大半が迅速に行われている。術後のケアはリハビリテーションがその役目を引き継ぐ。80〜90歳台の超高齢者が手術から回復、そして社会復帰できるかは、リハビリ効果に係っていると言っても過言ではない。

本院では、すべての救急症例を受入れ、中でも高齢者の緊急医療が毎日進行中である。のどかな離島医療を夢想している人々には想像もつかない世界である。

高齢者に対する医療が中心となる今の時代、とくに高齢者を救うか否かは救急医療のレベルに依存している。離島の急性期医療に必要なことは、医療従事者個々の使命感、熱意、向上心、技術力そして何よりも「やりがい」が感じられることである。

我々は、今の時代に合った急性期医療を遂行していると思うが、どうだろう。

種子島医療センター公開講座

『がんのこわくて、やさしいお話』 が開催されました

今年5月に開催した公開講座『胃・大腸カメラ』では、日本人の2人に1人が一生のうちにかんと診断される可能性がある一方で**早期発見・早期治療**によってリスクを軽減し、克服できることがわかってきたことをお伝えしました。その一方で、世の中にはさまざま情報があふれ、どれが正しいのか混乱して不安に陥ってしまうケースがほとんどです。そこで、がんについて正しく知ってもらうため、10月20日(日) 西之表市民会館にて市民公開講座『がんのこわくて、やさしいお話』を開催しました。



『がんと幹細胞のお話』

高尾 尊身 病院長

『手術治療を中心に』

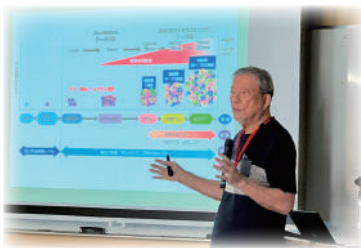
外科主任部長 大久保 啓史 先生

『がん薬物療法について』

がん化学療法認定看護師 山之内 信さん

今回の講師は、長年がんの研究に従事し、治療を行ってきた高尾 尊身 病院長、大久保 啓史 外科主任部長、山之内 信 がん化学療法看護認定看護師が務め、「がんとは何者なのか」、「なぜできるのか」、「なぜ怖いのか」、「予防はできるのか」、「どんな治療法があるのか」など、難しく怖いがんのことを、わかりやすくやさしく解説しました。

高尾病院長は「なぜ、がんは克服できないのか」について、人間の組織や細胞を修復し再生する幹細胞の観点からわかりやすく説明し、がんになる仕組みやどの時点で検査するのがいいのか、どんな治療法があるのか最新情報を紹介しました。



高尾 病院長

詳細な治療法については、大久保外科主任部長より腹腔鏡手術を含む最新の手術治療法についてお話頂き、山之内認定看護師が進化しているがん薬物療法を中心に紹介し、手術や治療に関する誤解を解くとともに、治療にはさまざまな選択肢があり、既往症の有無などその方の状態、がんの種類、がんの病期(ステージ)に応じて適切な治療を行えば、決してこわい病気ではないことをお話しました。



大久保 啓史 先生



山之内 信さん

また、がんと診断された時から心や苦痛症状をケアする緩和ケア看護認定看護師が常駐し、様々な職種スタッフがあらゆる面から支えるチーム医療とサポート体制が整い、たとえがんにかかったとしても安心して治療が受けられるのも、地域がん診療病院である当院の強みです。講演後にはパルティスセッションが行われ、「がんは遺伝するのかわかぬか」、「がんを予防することはできるのかわかぬか」、「がんを克服できる未来は来るのかわかぬか」といった様々な質問が寄せられました。

がんはすべての人にとって身近な病気であり、治療やサポートも充実してきた現在では、過剰に恐れる必要はなくなってきました。とはいえ、**早期発見、早期治療**、がんから身を守る方法です。そのためにも、**がんの正しい情報を知り、定期的にかん検診を受けること**が、がんをこわくない病気にしてくれる有効な手段であることを心に留めておきましょう。

種子島医療センター公開講座

『整形について』が開催されました

介護が必要になったときに受けられる介護保険の調査によると、介護が必要となる原因の上位を占めるのが、骨折・転倒となっています。

高齢者にとっては寝たきりになる大きな要因でもあることから、8月4日(日)、種子島医療センターでは、骨折や転倒の予防とリスク管理の重要性を知ってもらおうと公開講座『整形について』を開催しました。会場となった当院リハビリテーション室に用意した定員40名の席はすべて埋まり、皆さんの興味の高さを感じました。

今回講師を務めたのは、当院の整形外科部長の瀬戸山傑先生と運動器認定理学療法士の山口純平さんです。

『骨粗鬆症について』

整形外科部長 瀬戸山 傑先生

『転倒予防について』

運動器認定理学療法士 山口 純平さん

1部では、まず瀬戸山先生が高齢者の骨折の大きな要因となっている骨粗しょう症の予防と治療、顎骨壊死といった薬の長期服用による副作用について丁寧に説明して頂き、続いて山口理学療法士が、転倒チェックや予防体操を交えながら実践的な転倒予防法を紹介。参加者の皆さんは真剣に耳を傾け、体を動かしていました。また、2部のパネルディスカッションでは、靴選びや通販商品のこゝとまで、さまざまなお悩みが寄せられ、あつという間に2時間が過ぎました。



骨がスカスカになる骨粗しょう症は、骨折しやすくなるだけでなく、腰痛や背骨の痛みを引き起こし、背骨や腰が曲がる要因でもあります。ご家族に骨粗しょう症の方が多く、姿勢が悪くなった、転びやすくなったなど、気になる方は早めに検査や診察を受け、日頃からリスク管理を心がけましょう。



山口 純平さん



瀬戸山 傑先生

整形外科 吉元 秋穂 先生より

変形性膝関節症についてです

変形性膝関節症は、整形外科領域で症例数の多い疾患のひとつです。今回は、変形性膝関節症の病態と手術について説明します。

主要症状と病態は？

主な症状は膝の痛みと水がたまることです。初期では立ち上がり、歩きはじめなど動作の開始時に痛み、休めば痛みがとれますが、正座や階段の昇降が困難となり（中期）、末期になると、安静時にも痛みがとれず、変形が目立ち、膝がピンと伸びず歩行が困難になります。

原因は関節軟骨の老化によるものが多く、肥満も関与していると考えられています。また膝関節周囲の外傷や感染の後遺症として発症することもあります。加齢によるものでは、関節軟骨が年齢とともに弾力性を失い、使い過ぎによりすり減り、関節が変形します。残念ながら、一度擦り減った軟骨は元には戻りません。

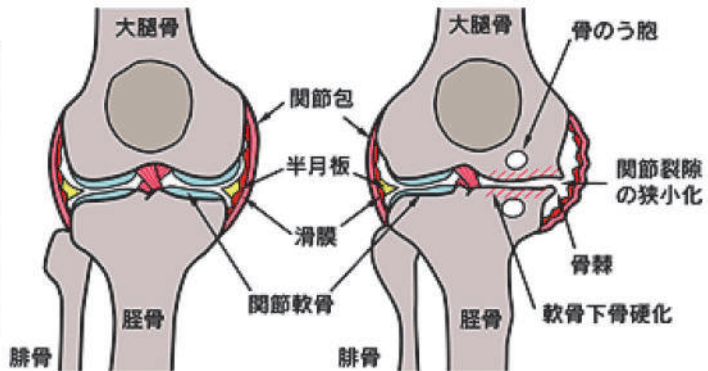


正常



変形性膝関節症

X線(レントゲン)写真



正常

異常

治療法は？

症状が軽い場合は鎮痛薬や外用薬を使用したり、膝関節内ヒアルロン酸注射をしたりします。またリハビリテーションや、膝を温める等の物理療法を行います。足底板や膝装具を作成することもあります。

このような治療でも治らない際は手術も検討します。関節鏡（内視鏡）手術、脛骨骨切り術（骨を切り変形を矯正する）、人工膝関節置換術があります。加齢が原因の場合には、人工膝関節置換術が選択されることが多いです。

手術の合併症は？

出血、感染、神経血管損傷などの合併症を来す可能性があります。また術後数年経過してから金属に緩みが生じることもあるため、定期的にレントゲンを撮影する必要があります。

当院での手術成績

昨年度、当院での変形性膝関節症の手術件数は12件で、手術合併症はなく、再手術が必要な症例はありませんでした。



関節鏡手術

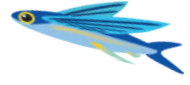


骨切り術



人工関節置換術

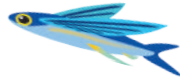
南日本新聞へ 小児科 塩川直宏先生と理事長 田上寛容先生 の記事が掲載されました



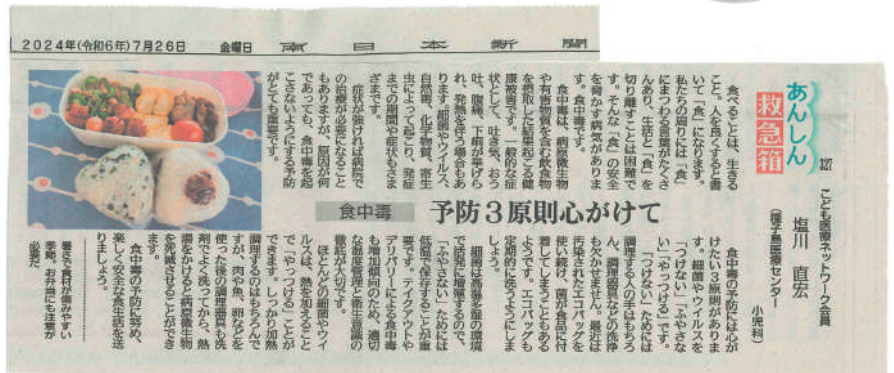
令和6年7月26日掲載
《あんしん救急箱》
塩川直宏先生

令和6年9月17日掲載
《かごしまドクター便り》
田上寛容理事長

の記事が掲載されました。



(南日本新聞社より記事掲載許可済)



田上容正会長が南船賞を受賞しました

医療に身を捧げた54年の人生を歌った田上容正会長の短歌『医の道』が、令和6年8月25日に行われた鹿児島島の歌壇「南船」の夏季短歌大会にて「南船賞」を受賞しました。受賞した歌について、南日本新聞（10月18日発行）の『かごしま短歌季評』に取り上げられました。



医の道

- ・ 病む人の貧しき人の友となり過ごし生も日暮となりぬ
- ・ 木蓮が白い花びら咲かせおりその芳香が鼻腔に匂う
- ・ 野や山に色とりどりの花咲けりその営みに吾驚嘆す
- ・ 桜花そぼ降る雨に濡れて散るその情景にしばし佇む
- ・ 八重桜春の最後を飾るかな深紅の太い花びらつけて
- ・ 白頭鳥が桜めがけて突入す啄んでおり蜜を求めて
- ・ 故郷に還りて医療ひとすじに尽し来たりて五十と四年
- ・ 薬剤の仕事せし妻医師吾と小さき医院開きて久し
- ・ 医の道は天の授けし道なればただひたすらに歩み来たりし
- ・ 世の人の真心ありて吾は生く吾も負けじと強く生きねば

(医の道 一部掲載)

リハビリテーション室より 変形性膝関節症予防・足のトレーニングの紹介

▼ 股関節の運動

座った状態で太ももを上げる運動。
左右10回を2セット



▼ 膝関節の運動

座った状態で膝を曲げ伸ばしする運動。
左右10回を2セット



▼ 足首の運動

座った状態でつま先・踵を上げ下げする運動。
左右10回を2セット



▼ 膝関節の前を鍛える運動

膝を伸ばして座った状態で膝でタオルを押さえる運動。
左右10回を2セット



糖尿病を予防するには
バランスの良い食事
適度な運動など
未病改善する取り組みを
心がけましょう。

あなたは大丈夫？
忍び寄る糖尿病

もしかしたら、すでに **糖尿病予備軍** かも...?!

のどが渇く 尿の量が多い 飲水量が多い 発汗が多い

糖尿病外来 できちんとした **診断** を受けましょう。

11月14日は
世界糖尿病デー

社会医療法人 義順顕彰会
種子島医療センター
病院長 高尾 尊身
TEL : 0570-09-0960

当院は鹿児島大学病院と連携している
地域がん診療病院 です。

早期発見・早期治療が大切です。

化学療法 緩和ケア がんのリハビリテーション 相談支援

がんと言われたら、一人で悩まずご相談ください。

社会医療法人 義順顕彰会
種子島医療センター
病院長 高尾 尊身
TEL : 0570-09-0960

一つでも多くの命を救うためには、
初期対応が大切です。
現場に居合わせた皆さんから
救急隊へ命のバトンを
つないでください。

9月9日は救急の日

誰もが救命のヒーローになれる！

心停止を防ぐ 早期認識と通報 心肺蘇生とAED 救急隊へ

途絶えかけた人生の点を次の線につなげられるのはあなたかもしれない。

社会医療法人 義順顕彰会
種子島医療センター
病院長 高尾 尊身
TEL : 0570-09-0960

市政の窓にも
掲載しています！
ぜひ、ご覧ください！

タメになんろーな
見らんばやろー